

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

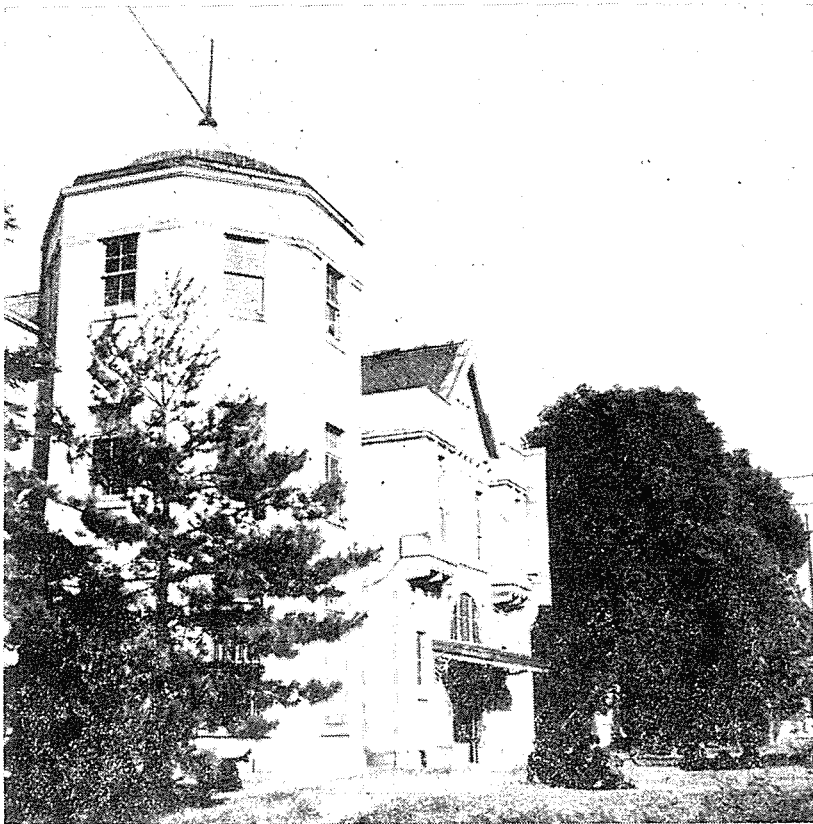
Osaka, Feb. 15th, 1955. No. 276.

關西大學學報

昭和30年2月 第276号

校友會特集

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十年二月十五日發行(毎月一回十五日發行)
通卷第二七六号



影面台學館文學部法文の日のしり

關西大學學報局



the alma mater としての関大

関西大学 学長
関西大学校友会 会長

法学博士 岩崎 卯一

どんなひとにも、その心の奥をのぞいてみると、「三つの一ふるさと」がある。これらのものを想い起すことに、心は温められ、浮世の風当りから負うた傷の痛みも薄らぎ、懐しきの情がこみあげてくる。それらはみな、人生行路における靈の憩場である。ふるさとの第一は、血のつながりの根元をなす母である。the alma mater である。このラテン語系の言葉は、そのまま訳すると「はぐくむ母」である。母は子供にとつてだけ役に立つ存在ではない。旅路の果てにあるひとびとの臉の裏にも、母の像はふかく刻みこまれている。ふるさとの第二は、地の緑しの初端をなす郷土である。ふるさとという言葉の本来の意義は、このよ様な地縁的なものであらう。塵と埃とに埋められがちな都市に生れた者でも、それが故郷である限り、愛着捨てがたいものを感じる。ましてや、秀麗な自然に恵まれた故郷をもつものの気持は、「ふるさとの歌」に示されている。ふるさとの第三は、人間文化の殿堂ともいえる学園である。学園生活のはじまりは、幼稚園や小学校であるが、その最終段階は大学である。大学を去るとき、その人にとつて、最終にして不変な「母校」の名が唯一のものとなるのである。ひととは、母の懐において人の世の温かさを感じ、故郷の山川と人々によつて広い世界の一端に触れ、学園生活の間で人類文化の高さを悟るのである。

いままた、わが関大学園は近く、千里山と天六とに位置する二学舎から、わが学園を「母校」the alma mater と呼ぶ数千の卒業生達を、「螢の光」の歌を重心にかえつた気持で合唱しながら、実社会の各層に送りだそうとしている。

the alma mater は「養母」という意味と「母校」という意味とを併せもつ言葉である。かつてわたくしが学んだことのあるコロンビア大学の高台正面には、金色にかがやいた女神の銅像が建てられ、その台石には alma mater の文字が刻みこまれていた。コロンビア大学の「母校性」を象徴したものである。そこでは、昨春秋に創立二百年記念祭が行われ、全世界に散つてゐる幾万の校友達がニューヨーク市のモーニング・ハイトに集まり、森川太郎博士（本学教授・理事）も列席されたことであるが、参列者達はひとりのこらず、この the alma mater の女神像を仰ぎ、心と文化との「ふるさと」に戻つてきたような感にふけつたであらう。

関西大学は、今秋にその創立七十周年記念祝典を行うほどに「長い歴史」をもつ一学園になつた。すでに四万五千の社会人が、われらの学園を the alma mater と仰ぎ、その健全な発展を祈りつゞけている。明治二十二年の第一回卒業式では、わずか十七名の校友をつくりだしたにすぎなかつたが、昭和三十年、つまり今年の三月には、約三千名の新しい校友達が、心のふるさととしての母校に尽きない名残りを惜しみながら、巣立つてゆくのである。が、これは母校への長い訣別ではない。卒業式場で、各種の卒業証書を手にした瞬間から、学生として臨んだ the University は、そのままの姿で、校友として仰ぐ the alma mater になるのである。学生生活の最終段階に立つ若人達よ。関西大学を the alma mater として懐しむ校友の生涯には、もはやなんの期限はない。いつまでも「関大校友」である。

第二七六號

(校友会特集)

目次

the alma mater としての関大	岩崎卯一	(2)
校友実業人を囲んで	……………	(3)
校友の面影(武田宣英氏 横田健一)	……………	(6)
校友会について	……………	(7)
府県別校友住所判明者一覽表	……………	(8)
校友会支部	……………	(9)
職 域 会	……………	(11)
同期生会	……………	(12)
昭和二十九年アルバム抜萃	……………	(12)
校友会役員の乗り	……………	(14)
校友抜き書	……………	(16)
関係校友会	……………	(17)
校友会入会式に就て	……………	(17)
あの頃を想いこの年に祈る	……………	(18)
校友会々則	……………	(19)

校友実業人を囲んで

座談會

近鉄取締役会長 三好 万次氏
 大和紡織専務 飯国 壮三郎氏
 尼崎信用金庫 松尾 高一氏
 理事 長

関西大学理事長 白川 朋吉氏

司 会長 柄 金 吾
 編集委員 三島 神屋敷、佐伯、安井

長柄「御案内を差上げましたように年に一回づつ、毎年学報の二月号を校友特集号として発行していますが、財界事業界方面の学校への結びつきというのが比較的うすかつたのではないかとこういう考えで前年校友会役員の改選をやつた時期から、そういう意見が非常に強く出ました。

特に今の学校が法律万能じゃなくて、法、文、経、商の四学部を合せ持ち中でも経済科、商科の志願者が年々多くなつていて、そういう立場から実業界を目ざして進むという傾向が非常に強いようですので、実業界出身の御歴々の方のお話を頂戴して集立とうとする学生達又は校友の多くの人に紹介して後輩のために途を開いていただくとすることは非常に結構だと思います。

こういう立場で特集号を、特に本年は特別編集委員会を設けまして、今日

こゝに出席しました学報に縁の深い、やはり書房代表者神屋敷さん、安井校友課長さん、鐘紡庶務課長の佐伯さん、一中の三島校長先生と私という連中が集つて種々協議しました結果、勝手ながら吾々委員の方で選びましたのが、唯今こゝに御出席の大和紡織の飯国専務さん、近鉄の三好会長さん、尼崎信用金庫の松尾理事長さん、それに白川先生は永年弁護士として又政界関係として有名なばかりでなく事業界方面でも大変古くから御活動しておられたので旁々学校側という立場もかねて貰いまして、特別に御参加を願つたのでザックパンに先輩の御言葉をいたゞきまして学生並に若い校友達に大きい石を投げたゞきお導き願いたいというのが今日座談会を開いた趣旨でございます。特に私学から実業界で代表的な御活躍をされるというまでには、

なみなみならぬ御苦労があつたと思ひますので、そういう過去の御経歴なり御苦心談なりを御紹介願えれば非常に



向つて左より（左列）三好・白川・松尾・三島（右列）飯国・長柄・神屋敷・安井・佐伯

結構じゃないかと思うのですが、如何でしょう。（一同思案顔―笑声）

それじゃ一つ白川先生には話の合間々々に御言葉をうけたまわることにし

まして先着順で御言葉を頂戴することにいたします。松尾さんは岡山県英田郡の御出身ですがいつ頃まで故郷におられましたか」

松尾「私は二十八歳頃までおりました岡山県の美作出身で大村防衛庁長官と一緒です。田舎ですから農林学校を出まして蚕種講習所を作つて生徒二十人ほどで蚕を飼つて教師が釜たきをやつたりして随分苦勞をしたものです。其後大正十年に信用組合をこしらへ、爾来ずつと四十年近く信用組合業務をやつています。それは産業組合法による市街地信用組合です、今の信用金庫というのは終戦後産業組合法が改正になつて吾々が立案してできたもので私の金庫が信用金庫の第一号です、私は若い時分に暫く河内町の関西法律学校に勉強したこともあり、それは明治三十八年頃でしたが都合によつて退校しました。ところが信用組合をやるには一応どうしても勉強をやつておく必要があると思つたので専門部へ入学したのです、昭和二年の卒業です。今信用金庫は全国で五百六十程ありますが何処とも合併せずに単独で信用組合から信用金庫になつたのは私の処だけです、私はその理事長をやつたり又全国信用金庫連合会代表理事をやつています」

註・松尾氏は昭和二十八年緑綬褒章を受けられた。

委員「尼崎信用金庫は非常に御成績が優秀だと承わっていますが」

松尾「合併しないものでは全国で一番です。二十も二十五も一緒にやっています。処もあります。尼崎は特殊な処ですから合併せずにやつたのです。始めのうちは尼崎市だけでしたが今は川西市、宝塚市、伊丹市や大阪にも支店を構えたので本店の外に支店が十五、職員が三百人余り居りまして関大出身も十五人おられます。本年も森川先生から一名推薦されたのを入れて四、五名採用いたしました」

長柄「それでは次に三好さんに御話を伺いたします」

三好「私はあまり苦心したと云うことが無いのですが……私は大正四年に専門部の法律科を卒業しました」

委員「先生は明星商業の出身でしたか」
三好「実は京都一商から卒業一年前に来て明星を卒業しました。大正二年に大軌電鉄に入社しましたが、当時生駒トンネルの落磐事件があつて、会社が二百五十万円の損失をしたのです。その時会社の資本金は三百万円で借入金なしでやつているので危機に直面したのです。その為勤めている人もドンドン辞めてしまつた。私はその儘残りましたが、先輩はそうして出てしまつた跡に宿命と思つて、只確つかり仕事をやればよいと考へて人の仕事運手伝つて

やりました。皆宿直を厭がるのです

が、私は宿直もよく引受け宿直料も貰えるし、仕事もはかどるし軽い気持でやりました。その後近畿車輛に入つたのはページにかかつてからの事で、当時近畿は南海と合併してました。戦



災の為貨車百二十輛、電車四十輛が焼失していたので車の補充をせねばならぬ。幸に車輛会社には復活資材もあつたので色々の過程を経て近畿車輛が出来入社する事になりました。

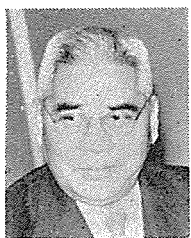
次に私自身の感懐として、校友会で会を造る時は会の世話役と云うか委員と云うか、そうした幹部の分担を単的に申上げると、雑費を負担する委員、実務を推進する委員、包括責任を持つ委員長で構成し、其の分担を委員間の默契により運営したらどうかと思つたのです。そうでなくして何もかも最後に一人に背負わされる結果になるのでは仕事の忙がしい者にはやり切れない。随つて会は発展しないことになりま

れた訳ですね」

三好「私は大軌電鉄から現在の近鉄までに六代の社長に任されたのですが、最初が広岡三社長で二代が岩下清周氏でした。その間いろいろのことを味わつたのですが、真理は変らないと云うことを痛感します、又私が就任してその役目と心得ていることは、古きを温ねて新しきを知る」ということであります」

長柄「紡績業界は関大からは尠ない、五人位と思ひますが飯国さんは出雲製織から入られたのですね」

飯国「私の家は元米酒屋でしたが始め出雲製織の創立者に子供がないので、引取られて書生となり、履歴書なしで入社、住吉工場に入り、その際関大の友人二人連れて入つたのです。一人はその後資材課



の重役をしています。それから私は一貫して三十年併し若い間極めて平凡に暮して来ました。大阪の本社に入つたのは終戦後です。大阪帆布の方は社長なしの専務となつたのですが当時二十

私もその頃は進歩的な気持を持つていました」

委員「飯国先生は戦後第一回の選挙で島根県から最高点で衆議院議員に当選されましたね」

飯国「先生なんて云わないで下さい。紡績屋の番頭ですよ(笑声)

あれは会社の命令で実業人が政治に無関心ではないかと云うので会社の方で私を選定して勝手に手続したものですから仕方なしにやつて最高点で当選はしたが、代議士になつて見るとこれは退くときが肝心だと考へていたら解散したので地盤を大橋武夫君に譲つて私は会社に帰つたのです。幸に加藤正人社長が参議院議員に出られたので短かい私の政治経験ではあつたが社長を補佐することには役立つたと喜んで居ります」

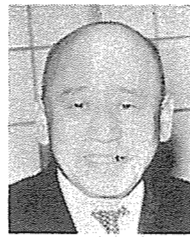
長柄「飯国さんは立派な御体格ですが、何かスポーツをやられましたか」

飯国「私は中学時代は柔道の選手と四百米の選手であつたが脚気で駄目になりました。いま会社には工場長も営業部次長も関大出身であり其他若干をりま

にやかましいです」

委員「関大は語学が弱い、語学は一朝一夕では出来ない、語学は一、二年だけでなくて四年間ミッチリやらねば駄目です。その真面目な努力を見るのが語学ですね、慶応では四年間語学をやっているようです、このことについては水谷、賀屋両先生にも話しました」

松尾「英語も数学も大切ですが、本当をいえば質が大切です、環境も大事ですから最後には家庭をよく調べます、本年も四、五名とりました。まあ昔の関



大は夜学であつて学校自体も目的が違つていた。最近は七十年の歴史を持ち校風も揚り非常によくなつて来たし採用する方も礼儀とか、動作とかの点についても最近やかましくなつて来ました」

委員「綜合大学か単科大学かという問題ですが」

飯田「妙ないゝ方ですが目先が必要で探るのではありません。将来幹部の見込あるものをとる、卑近な言い方ですが短距離型よりも長距離型で将来の見込のある者に重点を置いて大学卒業者を採用するのです」

長柄「白川先生は弁護士生活五十年、市

会議長八年と政治生活は皆が承知してありますが、社会人の知らない事業面について御話を伺いたいと思います」

白川「私は弁護士生活は五十七年、内二年は東京で五十五年は郷里に近い大阪で、又市会議長八年、電鉄会社は四十年その間社長、監査役、相談役をやりました、その初めは阪堺電鉄で浪速区の菅原橋から堺に行く電車でした。八年前の市会議長も無事に終つて弁護士に専念しようと思つていたときは非社長を引受けて呉れと大阪商船の村田省藏氏と村尾竜太郎氏がいつて来て、出て貰わなければ喧嘩になるから是非引受けて貰いたいと強いていわれるものだから、関係者に親戚の大株主もあつたから引受けた訳です。

これを最後まで勤めて大阪市に買収されました、又讀岐電鉄（現在の琴平電鉄）ですがこれを創設して社長となりました、電鉄に関係したのが今から三十四年前、社長十六年、監査役十四年丁度三十年と現在相談役四年です。又大牟田電鉄これは市街電車ですが取締役となり三年後には西鉄に合併されました。斯様に私は電鉄事業四十年もやつて来ました。大阪市会議長を勤めた当時議事の際は一切席を離れないことを心に決めて時には十時間以上も小便に行かずに議長席を守つたことがあります、幸にして私は関市長のときに天

主閣、美術館、地下鉄の建設から学制の統一の問題等今日の市制の基礎を確立したのです。

本年は両親の七十年であります、私が十三の時亡くなり、本年私は八十三才ですから恰度七十年になります。

学校も七十周年です、私は若いときに弁護士になるのか医者になるのかと考へたが初めは医者になるうと思つて医者の書生になりました、十七、八才の時であつた。近所の家の娘さんを診察（代診）に行つて初めて体温計で熱を計つたが三十七度ですから平熱である心配はいりませんといつた、処が家の人が寒暖計を見て先生寒暖計でさえ七十四度あるのに体温は三十七度ですかと云われて、よわかりました、考へた末、それでは今一度左を計りましょうといつて計りました処が三十七度でしたから左右合せて七十四度ですといつたら、わかりました……と云う失敗もありました。

それから大阪に出て法律家になりましたと思つて当時河内町の関西法律学校に入学したのです、これが明治二十七年、八年でランブで勉強したのですが中退して東京に出て明治三十一年卒業したので、それから弁護士試験に合格したので東京で開業して二年間やり大阪に帰りました。関西大学には特別の関係もあるのて理事や監事をやり特

に大学の昇格の際は資金を集めることに努力いたしました」

委員「先生は借金王石井定七事件に御関係されましたね」

白川「石井さんは七百万円の借金をされていまの金にすれば百五十億です、破産事件と刑事事件であつて東京から花井卓蔵先生も見え大いに弁護されたのです、刑事事件は無罪となり破産の方も復権も出来て無罪となつたのです、其当時としては大事件でありました」

長柄「時間も大分経過しましたのでこの辺で一と切りして食事しつゝ特集号にふさわしい御意見を拝聴することに致します」

以上の次第で食事中も実に活潑な母校愛に燃ゆる意見が切々と表現され母校に対する報恩の強い念を示されたが特に学生の就職問題については先づ実力を養成すること、品のある礼儀正しい学生を養成すること、入社試験も第一次は何としても本人の実力と健康が中心であつてこれは質の問題である、その関門を通過した上で家庭とか環境とか、縁故その他採用する側の条件に合致した者を選定することになるので、如何にその事業に幹部の先輩が居つても初めから縁故一辺倒では無理であることを認識して貰う必要があることを異口同音に強調されたことを附言して筆を擱く。

校友の面影

オ一回生（明治二十二年卒業）

法学博士 武田宣英氏

武田翁は高知県の出身でもとと野良吾といつて居られた。豊かなる家庭に生れたが、十七歳の時、勉学の志を交難く、遂に意を決して郷國を出て、明治十八年上阪、当時大井憲太郎等の大阪国事犯事件の裁判長としてまた法律學者として有名なあつた井上操氏の舊生となつた。もとより氏は井上先生と面識があつたわけではないが、再三再四懇誠をもつて懇願ついに望を達したが、時



し、終戦にいたるまで長年にわたり本学經營に尽力し、とくに東京方面における諸種會合に本学代表として出席されたことが少なくない。あつては校友会東京支部長としてつくされた。翁は極めて礼儀正しく謙虚誠實なる人格者だけに、しかし大変温い感じの方である。和氣清麻呂公を熱烈に崇敬し、同公の精神を

を思けるようになり、最初は毎月僅か千錢の小遣いを与えられたにすぎなかつたのが、遂には井上操先生著「商法講義」（大阪国文社刊）や「刑事訴訟法講義」（東京明法堂刊）などの原稿の筆耕に従事し、原稿料の半分を与えられるに至つた。學校時代に演説會、擬律裁判の討論會などしばしば行つて、氏も「予は東洋のグラッドストーンなり」などの演題を演説を振られたことなどがあるという。第一回卒業生十七名中最年少者として卒業、しばらく後に上京、和弘法律學校（法政大学の前身）に入學、一千九百零七年最優秀の成績をもつて卒業し、卒業式には卒業生總代として、弘學會々長岡田隆下御前で答辭をよみ、また殿下より稱し、賞品を受けるの栄を得られた。

現在神奈川県相模原の西武野にある温泉地として名高い湯河原の奥に新莊莊（氏の祖先新莊二郎義光よりとる）と号する四百坪の瀟湘雅雅な山荘に八十歳になられる上品な美しい夫人と共に八十七歳の老を養ひつゝ、余生を楽しんで居られる翁の按察な筆力による懷旧録は「風樹の記」（後「山荘四季の夢」と改題再版）に記されているから、校友生諸氏に一読をおすすめしたい。

オ一回生（明治二十二年卒業）

元貴族院議員 内田重成氏

昨夏濱崎學長が九州方面講演旅行より帰られて間もなく、第一回卒業生内田重成翁が下関に御在任のことが判明したから、是非創業当初のお話を伺つて来いとの命令を与えられた。それで九月八日朝、下関の東郊小月駅に下車し、人気のない山麓に近き森間たる松林中に、城の如く豪壯な堀をめぐらした御宅へ伺つた。武家風氣で玄關の長押には槍数本に弓矢、陣笠等の武器がかけられ、吉田松陰の土規七則の額がかかつてゐるのも長州らしい。案内を乞ふことしばし、残暑さきしき折



の初期の若い學生達の異常な勉強の決心と努力とを物語つて居る。翁は卒業後上京、和弘法律學校（法政大の前身）へ入學、ボアソノードに選せられ、二十四年七月卒業、裁判官となり明治二十一年、群馬裁判所長時代（その頃花井卓蔵が前橋で弁護士をして知り合つた由）に、時

た。翁は郷里長州で漢學を學んで居られたが明治十八年上阪西岸婦人が經營する英語學校に通つて居たが、関西法律學校の開校を聞いて二十年春入學、創立者の一人小倉久先生の經營された天満の友愛館なる處に起居しつゝ、興正寺にあつた學校に通つた。當時の塾生達の勉強ぶりはなかなか猛烈で、翁なども本をよんでいて眠くならず、そのまゝ、布団をひつかぶつて横になり、夏でも机の下に頭をつゝこみ上から大きな布をかけて敷をきつて眠り、眼がさめるまでその場におきて勉強したという。本は法律を中心にあらゆる本を手あたり次第に読んだ由で、今でも明治初年の書籍を多く蔵せられて居るが、特に珍重すべきは、関西法律學校時代のノートなお数十

冊を保存せられて居ることである。これらはいずれも毛筆で頗る筆澤に記されて居るが、翁は近くこれらノートを本学に寄贈して下さる由である。明治二十一年七月の「法學要旨」ノート裏に一朝露に恐れぬことは白菊の花より外に知る人ぞなしの和歌がまゝ自作詩
仄々男子望雲漢 胸中蘊蓄萬卷書
時不逢兮終無名 卽在仙空呼鳥々
明治二十一年六月仲流 海濱蘆葦聿水生
と記されて居る。聿水とは翁は旧姓津島であるところから名がられたのである。その詩の下の部分には「隼身石腸金剛目力」の書いてあるのも當時の初期の若い學生達の異常な勉強の決心と努力とを物語つて居る。翁は卒業後上京、和弘法律學校（法政大の前身）へ入學、ボアソノードに選せられ、二十四年七月卒業、裁判官となり明治二十一年、群馬裁判所長時代（その頃花井卓蔵が前橋で弁護士をして知り合つた由）に、時

校友会について

明治廿二年第一回卒業生十七名を送つて以来、校運の発展に伴つて年毎に卒業生の数を加へ、法曹界や実業界にその地歩を占めるもの顕れるに及んで、校友会の結成が要望せられ、明治卅年十二月八日大阪市北区菅原町「相生楼」で大懇親会をかねて總會を開催したのが校友会そもそものはじめである。時に卒業生総数は二百名、現在の年々二千数百名に比較すると隔世の感がある。

その後数次の学制の変更もあり、校舎も江戸堀、福島と新校舎に移り、校運も順調に進んで卒業生数も年々著増し、各地に校友会支部も出来、同期の会合も催されるようになった。大正四年には初めて会員名簿が出来たのであつたが、在学生名簿との合冊で、この形式は昭和五年までつゞいた。

当時の校友会則に「会員の名誉を維持し、併せて関西大学の隆盛を計るを以て目的とす」とあつて、母校の拡充に協力し、又年一回の總會を新卒業生の歓迎を兼ねて、卒業式当日中之島大阪ホテル又は中央公会堂で、大学役員、教職員、新旧校友の交歓懇親を図つた。これも昭和五年頃までつゞいた。

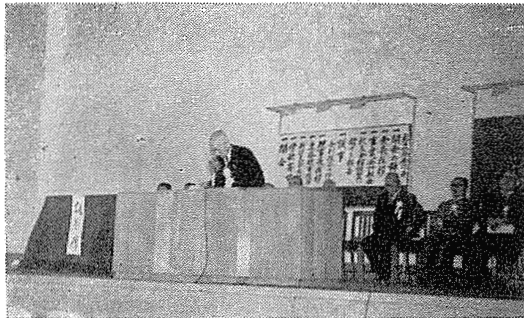
大正十一年学部が千里山に設置せられた時、千里山学報(後に関西大学学報と改題)が発行せられるようになって、同誌上に「校友彙報」なる特別欄を設けて、校友会の活動や校友の動静を報道した。学報は母校と校友を結ぶ連絡機関として大きな役割をはたした。

昭和五年専門部が天六学舎に移るに及んで校友会で会員名簿を發行することになり、名簿基金制度(三円払込者に毎年送る)をとつたのが、校友会で名簿を出したはじめである。そのうち学内外の状況は校友会本来の活動を喚起し、全国校友に呼びかけて昭和十三年

十一月二十日中之島中央公会堂で總會を開催した。集るもの一千名、母校愛にもえる校友の声はその後の校友活動に活を入れ、会則の改正により、学報の配付、名簿の發行の外、校友会誌の刊行、講演会の開催、各地支部の設立、支部活動の積極化、工専校設立促進運動等々その活動は校友会史上第一期を劃するもので、当時の学報に報道されている。

満洲事変が支那事変、大東亞戦争、第二次世界大戦と時局が進むにつれ、学徒動員、卒業式は壮行会に移行するに至つて、昭和十七年版を最後として名簿發行不能、学報休刊となり、校友会活動も停顿し、終戦後の混乱は校友との連絡もつかず空白の状態となつた。

大学当局ではいち早く校友課をおき、又学報も再刊してこれが蒐収に着手し、折柄学制改革により学校法人に組織が変り、大学評議員の中五十名は校友より選出されるようになり、校友は大学経営に参劃することゝなつた。従つて校友会には母校の援助によつて、会員との連絡をとることに努力し、支部並に職域、同期の会の結成や活動に積極的の働きかけ、現在北は北海道より南は鹿児島に至る各所に五十二支部、職域、同期の会も別項の如く組織



昭和29年度校友總會

され、長く中絶していた会員名簿も昭和二十八年にB5判五百頁、収載人員一万六千五百名の大冊が発行出来た。法人の定款によつて、学校法人関西大学経営の学校の卒業生は、すべて会員となつたので、関甲、二商、一高、一中の卒業生を含むことになり、校友総数は四万八千名、本年は又約三千名の新会員を迎えて、五万一千名、母校関西大学を紐帯とした一大血縁団体を形成する一偉観となつた。

一昨廿八年六月には千里山学園において、校友總會、地方支部長會議を開催して千余名の出席あり、昨廿九年には大学祭当日千里山新館法文学會講堂において總會を開催、会則の一部改正(別項会則)し、校友会復興運動に本格的にのり出し、校友会旗、会員バッジの制定もみた。

又校友会館は多年の懸案で、大学においても校友クラブ設置委員会を設けて、鋭意調査研究をすゝめ、既に七百万円の基金も積立済みで、校友の要望に於て実現を期しているが、その達成は一に会員諸兄の協力援助に俟つものである。

校友会員名簿も廿八年版發行以後、手を尽して会員の情報調査しているが、未だ不明のものも相当あり、広く会員を網羅して正確を期する為には、これ又諸兄の協力に俟たねばならない。

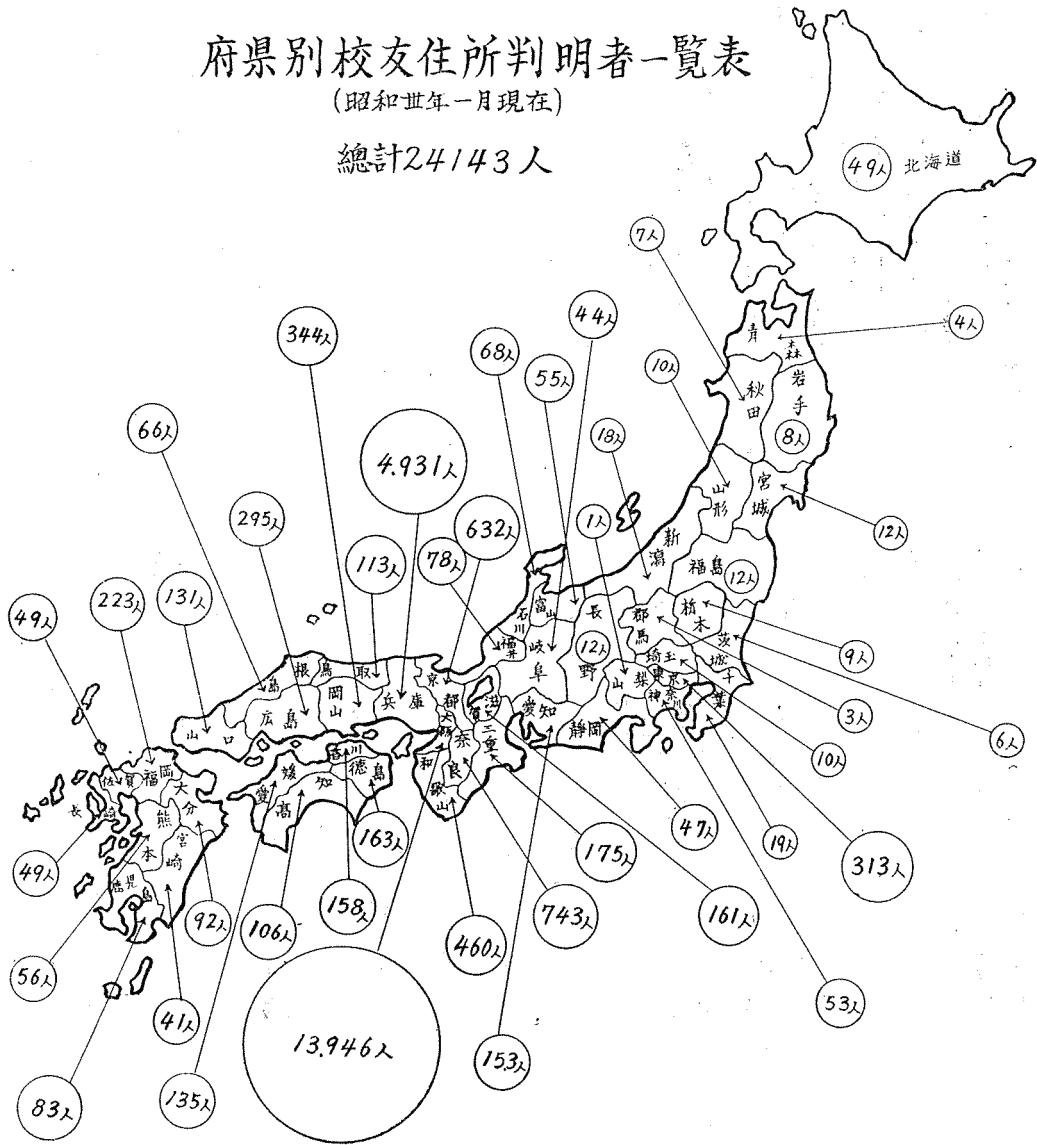
本年は母校創立七十周年に際し、大学にてこれが記念事業として千里山法文学會の新築、教授陣容の拡充強化、研究設備の整備其の他名実共に私学の雄を目ざして学内挙げて努力されていることに敬意を表したい。

私大における母校と校友との関係は、官公立のそれよりも一層緊密である。われわれは学歌に「長き歴史と高き權威」と歌はれている母校関西大学の隆盛を図るため会員諸兄との相互連絡を密にして和親協力、校友会活動に積極的な協力贊助を期待して止まない。

府県別校友住所判明者一覽表

(昭和卅年一月現在)

總計24143人



大阪市在住判明校友分布表

南区	237	北区	478	西淀川区	204	生野区	407	天王寺区	315
東区	263	東成区	278	東淀川区	832	此花区	206	大正区	133
西区	176	西成区	384	大淀区	223	城東区	342	浪速区	153
都島区	212	旭区	451	港区	288	阿倍野区	721	福島区	273
住吉区	706	東住吉区	693	合計		7,975			

關西大學校友會支部

大阪支部 (大阪市大淀区长柄中通二関西大学内)

電堀川 一七五六・三三三二・二〇七二・二〇七三

支部長 中務平吉 推薦 弁護士

副支部長 大石雄一郎 大15専商 大石紙工業KK社長

同 大月信雄 大6専法 弁護士

同 榎本信雄 昭3大法 弁護士

福島支部 (大阪市福島区今開町一の三二)

支部長 山田俊治 山田俊治方) 電此花 六四五

副支部長 嶋田大八 昭9専二法 弁護士

同 羽間平三郎 昭12大法 弁護士

阿倍野支部 (大阪市阿倍野区阿倍野筋六の三)

支部長 江村至身 大12専法 税理士、計理士

副支部長 鈴木武夫 昭5大法 弁護士

同 小嶋竜太郎 昭9大法 小嶋商事KK社長

住吉支部 (大阪市住吉区帝塚山中三の二六)

支部長 真鍋竹治郎 真鍋竹治郎方) 電住吉 二六五七

東住吉支部 (大阪市東住吉区田辺本町二の三七)

支部長 関矢貫一郎 関矢貫一郎方) 電東住吉 二四四

副支部長 平野耕造 昭10専一法 平野織維KK社長

同 深井敏雄 昭15専一法 KK新大阪通信社取締役

同 小泉博之 昭20専一法 曉食品工業KK取締役

旭支部 (大阪市旭区千林町三の九〇)

支部長 寺西武 昭20専一法 電城東 四五六三

同 寺西武 昭2420大法 大阪市議員

名譽支部長 高井真治 昭45専商 KK関西絹帯営業部長

守口支部 (守口市浜町一の五八)

支部長 本多喜慶 昭9大法 守口東御坊住職

副支部長 大川原与一 昭9専二法 医学広告取扱業

同 柏原俊孝 昭16専一法 鋼材販売業

幹事長 左海伊和 昭9大法 さかい印刷所代表

支部 (堺市大町東四の一四)

支部長 中村源次郎 大9専法 弁護士

副支部長 堀畑一 昭6大法 堀富商KK社長

同 井上專一郎 昭2専法 大阪市制被服共同組合理事

岸和田支部 (岸和田市五軒屋町西方寺)

支部長 辻野新 昭8専一法 推薦 弁護士

副支部長 伊藤藤増 昭15大法 計理士、税理士

同 森田久馬 昭4専法 岸和田市議員

布施支部 (布施市永和二の四、布施市教育委員会社会教育課内)

支部長 塚本万次郎 昭4専法 小坂信用金庫理事長

副支部長 広実郁雄 昭13専法 計理士、税理士

同 森喬 昭15大法 布施市議員

豐中支部 (豐中市岡町南二の一)

支部長 安富敬作 昭7大法 弁護士

副支部長 榎原武雄 昭18大法 豐中市議員

池田支部 (池田市榎木町二九一六)

支部長 弓庭元一 昭6専法 弁護士

副支部長 津田彦信 昭9専法 池田市 壽命寺

高槻支部 (高槻市新京町二九一の八)

支部長 脇野徳三郎 昭7大法 関西電力和歌山支店次長

副支部長 吉川敬一 昭6大法 弁護士

同 星田九一 昭13専法 精華印刷所

泉南支部 (泉佐野市上瓦屋七六六)

支部長 松浪庄造 昭8専二法 計理士、税理士、司法書士

副支部長 藤田春雄 昭9専二法 南海電鉄KK事業部

同 入江勇 昭5大法 泉佐野商工会議所専務理事

貝塚支部 (貝塚市鵜浜五二二三)

支部長 北村專一 昭7専英 貝塚市議員

副支部長 菅原正治 昭2大法 貝塚市公会堂主事

北河内支部 (寝屋川市豊野住宅)

支部長 泉谷与一 昭4大法 山大証券貝塚所長

尼崎支部 (尼崎市神田中通九の二九三)

支部長 荒川虎一郎 昭5大法 寝屋川市議員

同 松尾高一 昭2専法 尼崎信用金庫理事長

尼崎支部 (尼崎市神田中通九の二九三)

支部長 松尾高一 昭2専法 尼崎信用金庫理事長

副支部長 須佐美八 昭5專法 スサミ牧場主

同 西村治三郎 大14專商 大同通運専務取締役

同 山野田重治 昭2專法 神戶交通KK社長

西宮支部(西宮市六満寺町六七 雜古貞雄方)電西宮 一三七

支部長 雜古貞雄 大10專法 弁護士

副支部長 梶川多三郎 大7專商 兵庫県住宅土地協同組合理事長

芦屋支部(芦屋市松ノ内町一〇〇 田辺由治郎方)電芦屋 三二一七

支部長 田辺由治郎 昭13大商 計理士、税理士

理事 竹谷裕至 昭7專法 タケヤ商事KK取締役社長

川邊支部(伊丹市行基田一六五 磯野充賀方)

支部長 深川実 大13專法 大阪学園理事長・弁護士

副支部長 池田幸太郎 昭6專法 KK森田製作所取締役

同 末永甫 大3專経 KK新関西鑄鉄所社長

同 滝井義男 大15專法 滝井合名会社社長

神戸支部(神戸市生田区多開通二の二四 山崎敬義方)電元町 四六九・二三六七

支部長 山崎敬義 大14大法 日本公証人連合会監事

副支部長 向井裕亮 昭7專商 神港建設KK取締役社長

同 星野正身 昭5專法 兵庫県商工部貿易課長

同 水本信夫 大7專法 弁護士

明石支部(明石市相生町一の三六 片山元藏方)電明石 三二〇八

支部長 片山元藏 大11專法 弁護士

副支部長 尾島登龜 大3專法 眼鏡万年筆商

姫路支部(姫路市西新町一三七 田中吉次郎方)電姫路 七二六

支部長 田中吉次郎 大14專商 金物卸商

副支部長 滝中利幸 昭10專二法 姫路食品製造KK社長

同 吉松須賀根 昭4大経 播磨造船所安全管理室

但馬支部(兵庫県美方郡浜坂町駅前 米田兼光方)電浜坂 四九

支部長 米田兼光 昭152專二商 旅館業

京都支部(京都市上京区紫野上柳町一〇 荒賀勝平方)

支部長 神戸正雄 京大名譽教授・元本学々長

幹事長 荒賀勝平 大6專法 弁護士

滋賀支部(滋賀県蒲生郡八幡町魚屋町上二三番 宮尾一郎方)電近江八幡 一七三

支部長 信正義雄 大11專法 弁護士

副支部長 上田武雄 大11專法 公証人

同 上田啓次 推 薦 公証人

奈良支部(奈良市水門町戒壇院前 吉田孝雄方)電奈良 五五六八

支部長 高橋正次 推 薦 奈良市長

和歌山支部(和歌山市十一番丁八 宮嘉産業内)電和歌山 二〇三二

支部長 高垣善一 昭14大法 和歌山市長

副支部長 正田義春 昭10大法 和歌山ライトモ1タ1KK

幹事長 小堀欣二 昭10專一商 安田火災和歌山営業所長

北海道支部(札幌市大通西十二丁目 中田克巳知方)電札幌 二五〇一三

支部長 中田克巳 推 薦 弁護士

東京支部(東京都中央区日本橋本町三丁目太平ビル内)電茅場町 九七一六十九

支部長 中山幸市 大13專商 太平住宅KK社長

副支部長 瀬尾永治 大15專経 三美工業建設社長

同 田中寿藏 昭9大経 日本化繊検査協会総務部長

富山支部(魚津市新町二五 安田倫藏方)電魚津 一三七

支部長 古屋東 明45專法 弁護士

副支部長 栗山基一 大3專法 富山司法事務局長

石川支部(金沢市小將町中の一の二三 中西与七方)

支部長 中西与七 大12專法 松屋社長

副支部長 小間井与一 昭16專二法 松屋社長

福井支部(福井市大和中町喫 中部建設KK福井支店內山口俊雄方)電福井 三三九九

支部長 内藤哲応 大10專法 弁護士

副支部長 (旧姓名堀田与五郎) 昭2大法 機業

名古屋支部(名古屋市中区布池町三二 中根孫一方)電名古屋九局 一三六二

支部長 中根孫一 大13專法 弁護士

副支部長 松根一衛 昭3專商 日本フオノモーター会社

幹事長 河田矩次 昭9大経 愛知県メリヤス工業 協同組合専務理事

三重支部(津市丸ノ内本丸二〇八四)電津 一〇五二

支部長 小川成雄 大11專商 公認会計士

鳥取支部(鳥取市西町六三 奥沢澄方)電鳥取 三七四七

支部長 奥沢澄 昭5專商 税理士、計理士

副支部長 赤沢宏澄 昭8大経 倉吉農業高校

同 富沢吉 昭21大経 米子鉄道管理局公安課長

同 橋本喜一郎 昭16專二商 鳥取西高校

岡山支部(岡山市津島福居二二二) 神崎伝次郎 昭42專法 岡山商工会議所理事長

支部長 井上守三 昭8專二經 吳服商

副支部長 尾利雄 昭11大法 坂出市役所

幹事長 平尾利雄 昭10專二法 坂出市役所

廣島支部(広島市蛾町一三三) 今西貞夫方) 電広島 三七六二

支部長 梅田鶴吉 推12專法 弁護士

副支部長 尾原太一郎 昭7大法 弁護士

吳支部(吳市古川町五一) 清水篤夫方) 電吳 三五九八

支部長 鍵尾豪雄 昭7大法 弁護士

副支部長 下原太郎 昭1512大法 吳リッツ劇場

備後支部(尾道市西御所町海岸通一糸崎海運商會河合衛一方) 電尾道 一六二〇

支部長 河合衛一 昭2專商 糸崎海運商會取締役社長

關門支部(下関市豊町) 岡本勲治方) 電下関 八〇九

支部長 岡本勲治 昭38專法 弁護士

島根支部(松江市石橋町三九三) 森山時雄方) 電松江 二一六五

支部長 岩田維保 昭11大法 島根県會議員

副支部長 森山時雄 昭13大法 島根県醬油工業協組理事長

同 廣兼重郎 昭8大經 浜田信用金庫

德島支部(德島市大道町一丁目) 齋藤正美方) 電德島 九一九・三二〇三

支部長 三宅二郎 昭15大商 近畿広告KK德島支店

副支部長 小寺善二 昭7大經 森永乳業KK德島乳工場

同 黒田健勝 昭5專商

同 齋藤正美 昭11專一商 乾物問屋

幹事長 有本直弘 昭16專一經 金物業

香川支部(高松市旅籠町五五) 恩有會館内) 電高松 二五八一

支部長 藪下益治 昭3大法 弁護士

副支部長 馬場五男 昭10大法 弁護士

同 福岡良雄 昭10專二法 坂出市役所

愛媛支部(愛媛県伊予郡北山崎村三島町七六) 長埜友市方)

常務幹事 長埜友市 昭14專法

高知支部(高知市升形七の一) 岡内壽一方) 電高知 一二四一

支部長 岡内壽一 昭10專法 高知相互銀行頭取

副支部長 井上和夫 昭14專商 高知地方裁判所判事

福岡支部(福岡県筑紫郡二日市町武藏五〇八) 清原俊之助方) 電二日市 四〇五

支部長 清原俊之助 昭14專法 清泉閣經營

佐賀支部(佐賀市神野町二五八) 平川德雄方) 電佐賀 四二一三・四二六三

支部長 永石光雄 昭11專法 弁護士

副支部長 平川德雄 昭12專法 商業興信所佐賀支所長

長崎支部(長崎市城山町平和通八八号) 電長崎 四〇〇〇(長崎日日新聞社)

支部長 篠原公生 昭12專二經 長崎日日新聞渉外部長

副支部長 田浦末広 昭20大經 化粧品衣料品商

同 田浦誠 昭16專二商 アトム電機有限会社社長

大分支部(別府市楠湯通七の二一五〇) 野田博方)

支部長 野田博 昭2專商 運動具商

副支部長 子浦淳美 昭4大法 上野丘高校

同 西村正英 昭14大法 トキワ百貨店

宮崎支部(宮崎市吉村町今村甲四二二七) 西家宇平方)

支部長 西家宇平 昭11專法

副支部長 稲倉恒秀 昭10專商 日向興業銀行金庫課長

鹿兒島支部(鹿兒島市草牟田町四六九) 三興商事株式會社内) 電鹿兒島 二一六六

支部長代理 宮原一 昭7專國 三興商事KK社長

職 域 會

名 稱 連 絡 先

大阪高裁關大会 北区若松町高裁事務局 連絡幹事 電話番号

大阪地裁關大会 北区若松町 今中幸次郎 堀川六二

大阪地檢關大会 北区若松町地檢庶務課人事係 竹沢喜代治 堀川六二

大阪国税局秀麗會 東区杉山町一国税局總務課 北田利男 堀川三三

大阪郵政局關大会 東区京橋三丁目大阪郵政局 黒井肇 東五三

農林省大阪食糧事務所 人事課 井上竜男 東五三

關 大 南区安堂寺橋通三ノ一五 伊達重雄 船場三三九

大阪府庁秀麗會 東区大手前之町大阪府會事務局 今井憲夫 東三三

兵庫県庁秀麗會 神戸市生田区下山手通五ノ一 星野正身 元町三三

神戸市役所關大会 神戸市兵庫區松本通一 山本鎮郎 湊川一三

西宮市役所關大会 神戸市經濟局貿易課 辰馬卯一郎 西宮三三

吹田市役所關大会 吹田市六湊寺町西宮市役所 川喜田寛一郎 吹田三三七

大阪府下教員 吹田市中央町吹田市役所 總務課 戸川一雄 新町三六

秀麗會 西成區長橋通九ノ七 鶴見橋中学校

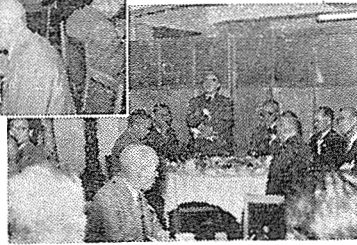
昭和二十九年年度

地方支部 アルバム
職域会 抜萃
同期生会

☆ ☆

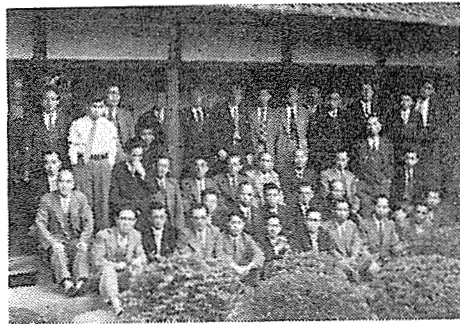


船場
東海クラブにて



大阪支部
四月二十八日

☆ ☆ ☆

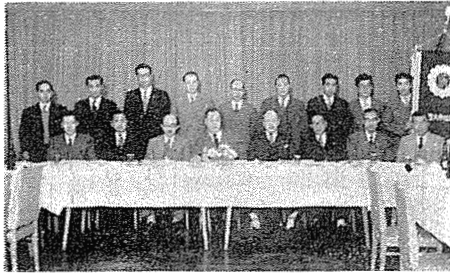


29.5.15 K.U.S (大阪郵政局) 奈良対山荘にて



29.5.23 (徳島支部) グリル・デイボーにて

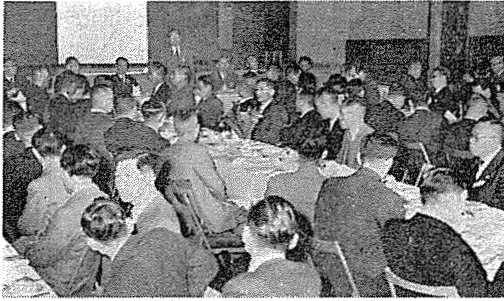
同期生会	卒業年	連絡先	電話番号
法曹千里会	東区北浜二ノ八七	榎本 信雄	北浜 三四八
関大近畿計理士会	北区鳴尾町一〇	長柄 金吾	堀川 三三六
大阪機械同窓会	西淀川区佃町二ノ八	東 正澄	淀川 三三
朝日関大会	北区中之島三	弘末 正彦	北浜 一三三
毎日関大会	朝日新聞社写真部	林 信夫	福島 三三
鐘秀会	北区新島北一	榎木 好一	堀川 五二
十合百貨店関大会	南区心齋橋工場	木原 繁実	南 一五二
近鉄百貨店関大会	天王寺区上本町六丁目	加藤 昌秀	天王寺 六三三
日本生命北斗会	近鉄百貨店庶務課	毛利 常次郎	北浜 三三
朝日生命千里山会	東区今橋一ノ九	鳴尾 芳太郎	北浜 三三
関大二商燎原会	朝日生命月松営業部	阿久根 幸吉	堀川 三三
関大 大三七会	八尾市今井三七・村尾静明		堀川 一四
四三三会	下条市山手町一〇〇ノ一		堀川 八五
正三二会	南区西野水町二一		南 三〇六
大三四会	東区西別館二階・中村公男		北浜 四四六
大四三会	東区今橋二ノ一六・(株)松本芳太郎		北浜 四四六
六四六会	塚本区北扇町四六		布施 二四二
甲子念会	横田区长次郎町四六		豊崎 七六
十三会(専門部)	布田区荒川二ノ六〇		布施 二四二
一四一会	東区市前之町大阪府会		東 五五
一五五会	北区網大戸三階		堀川 九三
一五五会	吹田区千代田里山四九二		堀川 九三
一五五会	住吉区竹塚山中三ノ二六		住吉 五五
千里山昭三会(学部)	東成区中本町一ノ四五		東 三〇六
昭三会(専門部)	天王寺区真法院町五・南清		天王寺 四二八



29.10.27 (福岡支部秋季総会) クラブ九州にて



29.10.24 (福井支部秋季総会) 風琴亭にて



29.11.27 (関甲クラブ) 中央電気倶楽部にて



29.10.30 (昭六会秋季総会) 千里山大学ホールにて

【備考】代議員は総会で会員中から選出、常議員は代議員会で互選、
 議員会で推薦、会長は総会で会員中から推薦する。
 副会長は常

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 後藤 文彦 | 佐々木重之助 | 桜田 誉 | 沢村 宗平 |
| 沢辺金三郎 | 雑古 貞雄 | 下矣小野石衛門 | 霜村 盛郷 |
| 白井 正実 | 白井 種雄 | 新堀鈿麻治 | 新谷 正巳 |
| 新谷 幹夫 | 篠原 昭三 | 島村 保穂 | 神保 敏男 |
| 須佐美八藏 | 関 矢貫一郎 | 関矢貫一郎 | 滝 利幸 |
| 淡 数男 | 谷 守節 | 谷口 宗一 | 多賀谷 宏 |
| 高橋 忠道 | 高垣 善一 | 高原 正次 | 田中松太郎 |
| 田中 幸治 | 田中 吉次郎 | 田中 藤作 | 田中 久雄 |
| 竹中 多賀三 | 竹内 吉次郎 | 武田藏之助 | 棚野 誠幸 |
| 千巖 克郎 | 土谷 正喜代 | 辻村 昌次 | 辻野 新一 |
| 塚本 万次郎 | 壺田 倫夫 | 戸根 泰雄 | 寺川 哲正 |
| 富永 竹次郎 | 富田 恭二郎 | 中村 源次郎 | 内藤 正剛 |
| 中村 敏雄 | 中村 正雄 | 中村 克己知 | 中村 敬次郎 |
| 中井 彌六 | 中本 健治 | 中山 幸市 | 中谷 敬壽 |
| 中根 孫一 | 中尾 善宣 | 長埜 友市 | 中谷 清 |
| 中石 清一 | 浪江 源治 | 鯉江 城夫 | 永田 清春 |
| 名田 京一 | 西脇 文一郎 | 西尾 専太郎 | 西村 正英 |
| 西山 四郎 | 野田 吉幸 | 野田 文一郎 | 原口 一郎 |
| 羽間 平三郎 | 浜野 庄作 | 畑下 辰典 | 納庄清之進 |
| 橋爪 亮一 | 平尾 廉平 | 平尾 利志明 | 林 功一 |
| 広瀬 精一 | 広美 郁雄 | 東浦 栄一 | 東山 利雄 |
| 弘末 正彦 | 藤田 健治 | 藤井 健造 | 藤井 健造 |
| 古屋 東 | 古市 忠実 | 深川 健治 | 本多 喜慶 |
| 松原 藤由 | 松下 忠由 | 松井 良雄 | 松尾 高一 |
| 真鍋 竹治郎 | 前田 富好 | 前阪 京成 | 前川 信之助 |
| 宮武 喜三郎 | 三宅 茂 | 村上 精三 | 村上 民二 |
| 村瀬 昭夫 | 村尾 静明 | 宗本 利市 | 向井 裕亮 |
| 森下 益治 | 森下 善雄 | 森本 与一 | 八木 万太郎 |
| 藪下 繁雄 | 山中 敬義 | 山本 守昭 | 山田 松太郎 |
| 山田 繁雄 | 山崎 一夫 | 山口 辰雄 | 安富 敬作 |
| 矢野 虎雄 | 吉川 元一 | 行平 太郎 | 矢口 孝次郎 |
| 米田 兼光 | 横山 敬一 | 吉村 種藏 | 吉田 三雄 |
| 渡辺 治明 | 横山 正 | 横田 長次郎 | 吉田 三雄 |

校友抜き書

この抜きがきは、校友名簿より各界に活躍している人々を、拾ひ挙げてみました。まだこの他に異色の校友が雲の如く、輩出していることは事実なのですが、スペースの関係上割愛しました、御諒承願います。

政界

昭和三十年総選挙に於ける衆議院議員当選者

氏名 選挙区 卒業年 住所
 山本勝市 埼玉4区 推 薦 埼玉県北足立郡草加町四七三
 高見三郎 静岡1区 昭4専法 静岡市本通一丁目
 田中久雄 三重1区 昭3専商 津市一身田町緑町三六四
 北村徳太郎 長崎2区 推 薦 佐世保市福田町二二三

1	東大	119
2	早大	45
3	京大	29
4	日大	29
5	中大	22
6	明大	13
7	慶大	8
8	東商大	7
9	東外語	5
10	専大	5
11	関大	4
12	東北大	4
13	立命	4
14	神高商	3
15	水産講	3
16	九大	2
17	陸大	2
18	海大	2
19	法大	2
20	東洋大	2
21	慈恵医	2
	以下	1

市長

参議院議員 森下政一 推 薦

和歌山市市長 高垣善一 昭1410 大法
 奈良市市長 高椋正次 推 薦 大法
 西宮市市長 辰馬卯一郎 推 薦 大法
 宇治山市市長 中辰西幸重 推 薦 大法
 宗 教
 生駒宝山寺貫主 松本実道 昭3 専法
 能勢妙見本道寺住職 野間秀泉 昭9 大哲
 高野山普賢院住職 森 寛 昭15 大法
 高野山大学学監 森 寛 昭15 大法
 謡 曲
 金春流宗家(奈良) 金春信高 昭17 専二回

画家

洋画(独立美術協会) 鳥海青児 大15 大商
 洋画(独立美術協会) 赤堀佐兵 大13 関甲
 洋画(二科会) 岡本一 昭16 専二法

作家

北条秀司 昭2 専文 (飯野秀二)
 井上友一郎 昭4 二商

芸能界

林弘高 大14 関甲 吉本興業専務取締役
 吉田三七雄 昭10 大法 朝日放送制作部長
 独活山万司 昭10 専二法 NHK大阪中央放送局
 田中友幸 昭10 大法 テレビ放送副部長
 村井富男 昭8 大哲 東宝プロシユサイ
 辰巴柳太郎 推 薦(関甲) 京都南座支配人
 志村喬 推 薦(専門部) 新国劇
 丸尾長瀬 大7 関甲 日本劇場演出家
 森 狂声 昭26 専二英 腹話術

昭和二十九年年度推薦校友

(五月六日附) 弁護士 青野実雄
 大阪弁護士会副会長 住所 西宮市甲子園口四丁目二四
 (十月七日附) 伊勢(宇治山田)市長 中 西 幸 重
 住所 伊勢市吹上町
 (十月十四日附) 衆議院議員 原 田 憲
 文部常任委員 住所 池田市菅原町六〇四
 日立製作所取締役 住所 横濱市保土谷区月見台五四
 住所 村上長 樫

▽推薦校友とは △

推薦校友は、学校法人関西大学寄附行為の、第九章第卅五条第二号に該当する校友であつて、現在百九十二名おられますが、その推薦の方法は、地方支部又は職域会、同期会等より、本人自筆履歴書に、代表者の推薦状を添えて校友会本部に申達し、理事会の承認を受けることになっております。

関係校友会

工專和鸞会

新制大学院修士会

南区河原町二ノ一五〇一 戎 雲登
萩田松博
尼崎市昭和南通八ノ二〇六 尼崎 三〇〇
宮田輝穂

関西甲種商業校友会

(大阪市大淀区长柄中通二ノ一二 関西大学第一中学校内)

理事長 三島 律夫 大8
常務理事 高橋 節治 大8 同 西村 治三郎 大11
同 中尾 善宜 昭5 同 古市 実 昭14

関大二商同窓会

(大阪市北区鳴尾町一〇 長柄金吾方 電福川三九)

会 長 長 柄 金 吾 二期
副会長 逢坂 勝美 五期 同 行平 百太郎 七期

関大一同窓会

(吹田市垂水一四四 関西大学第一高等学校内)

会 長 一部 塚田 正則 昭25 副会長 藤森 文夫 昭26
会 長 二部 江川 吉光 昭24 副会長 佐脇 利春 昭24

関大一中同窓会

(大阪市大淀区长柄中通二ノ一二 関西大学第一中学校内)

会 長 生 沢 憲 二 昭23 副会長 西川 省 一 昭23

校友会入会式に就て

戦前は校友会入会式を、卒業式当日、大阪中央公会堂等で開催したものであるが戦後、そのことは物資不足其他の悪条件に禍いされて廃絶された。

併し乍ら、新らしく卒業する人達には校友会員たることを認識するのに、どうしても入会式歓迎会に出席することが必要である。

新旧会員の交歓で、校友会の内容を知り、その活動振りを多くの先輩から聞き卒業後いろいろと便宜を得ることまた多大であるから、出席することは誠に有意義である。

其際、校友会で制定した会員章(バッジ)を会費等納入者に御渡しする。

新卒業生が社会に出て会員章着用者が同窓の友であることを知り厚誼を得て就職結婚 商取引其他のビジネスに就いて利益を享けること必然である。この様な意味に於て新しく卒業する人達は是非卒業式直後の校友会入会式に出席願いたい。

◇編集後記◇

校友特集号としての目的を如何にして果すか、与えられた紙面を何うして有効に表現するかと考えると容易ならぬことである。委員各位も随分アレヤコレヤと思想を重ねたのであつたが出来上つて見ると帯に短かし褌に長しの感がある。五万校友の消息は校友名簿で補充することにして本号は生脈に躍動する校友の姿の一端を表現することができた。文章でも写真でも言葉でも表現と云うことは感受する人の立場にマツチすることが要諦であるが仲々むつかしいものである。(長柄)

久々に学報の編集にタッチして思うのはその伸び方である。大正十一年に種が蒔かれ、之れが芽を出して少し宛伸びているようであるが、伸び方が非常に遅いのではなからうか、何となく陳腐な、老大と言うか疲れた感じがしてならない。

人の歩き方には会社員型、教員型、銀行員型、官吏型等いろいろあるが、要するに皆型にはまつている。学報の歩き方だけはどうか型にはまらないように、常に青々明朝新鮮であつて欲しいと願うのは厚かましいであらうか。

(三島)

七十年史編集委員の横田教授に「校友の面影」として明治二十二年第一回卒業の武田宣英博士と内田重成先生の紹介を願つた。両先生の面目躍如たる

ものがある。内田先生在学中丹念に筆記された講師諸先生の講義は貴重な記録であるが、関門支部長岡本勤治氏の斡旋で、大学に寄贈されるので、挨拶をかねて昨秋鹿兒島から滞りの途次、挨拶を兼ねて昨秋鹿兒島を訪ねた。「時頼式で」と云つて海苔とチリメンジャコでビール接待をうけた。風雪を凌いで八十八年、氣骨稜々、一日三時間の睡眠で、読書と揮毫、酒を嗜なみ、友あれば夜を徹して碁を囲む、對手が根負けして投出すのが常で、その精力的なこと正に壯者をしのぐものがある。読書の範囲はひろく、法律、政治経済、宗教教育、婦人青少年問題等々「わたしはどんな問題を議論しても對手を折伏するだけの自信はある」と。諷刺が伏すと云はれて「名も知れぬ山もこのごろ世に出て、にききにめだつ衣おぞきる」の近詠を示された。来る十一月の母校七十年の祝典には、必ずや先生をお迎え出来ることと皆さんと共に楽しみにして待ちたい。(神屋敷)

逝くものは水の如く呼べどすべなき過ぎこしの日よ！老いたるも若きも夢多かりし学窓生活の甘美なる想出は、所一時こそ異なれ、等しくランプの灯かげに洋書を繙いた興正時の幻影、福島学舎の東海道線の汽車の輪の響き！扱は天六の高架を走る阪急電車の姿を想い、千里ヶ丘の夕照に詩を誦みつゝ歩みし頃を想い出づるであらう。たとえ、時刻が過ぎまされ積まれて何十年か先に朽ち果つる身ではあつても、諸兄よ！校友の名において永遠に母校を愛しようではないか。(安井)

あの頃を想い

この年に祈る

三 島 律 夫

あれから三十五年の歳月が流れた、丁度七十年の半ばである。

大阪中央公会堂で創立三十五周年の式典が、委員長柿崎欽吾氏、学長織田萬先生、関西大学拡張後援会長山岡順太郎氏（今は共に故人であるが）の名によつて執り行われた。大正十年の事である。

三宅雪嶺、神戸正雄、直木倫太郎と文、法、工の三博士を講師とした記念講演会も、超満員の聴衆を集めて盛大に開かれ、宮島綱男先生の指図でその手伝いをさせられた事を思い出すと同時に、その時の写真アルバムの中のトツプに張つて、諸名士の末端に撮られた自分の小さい姿を眺めると、故人に対する慕情と共にこみ上げるような懐かしさを覚える。

山岡順太郎氏が総理事に、宮島先生が専務理事に就任せられ、この程じくなられた松本丞治博士を学長に迎えて関西大学の劃期的な飛躍が、当時千里村の蜜柑畑に向つてなされた。あのでこぼこだったらの一園が、今のように整備せられた一大学園になつた事を想うとまるで夢のようである。あの時代はまさに関西大学の建設期であり、発展期であり併せて宣伝期であつたのだ。さればこそ三十五

周年という中途半端な年を祝い、学生生活の総てもこれにかこつけて活況を呈し、成果を収めた記憶も私の脳裡にはつきりしている。今では政界一方の名士である浅沼稻次郎君（当時早大弁論部長）と、関大の弁論部を背負わされた自分とが、あちこちの会場で鉢合せをし、お互いに野次り合つては修練の一途を辿つたのも嬉しい思い出である。

今私が筆を執つているこの誌「学報」が、初名を「千里山学報」と命じられて生誕したのが翌大正十一年の五月二十五日（私が貰つた初代学報編輯員としての辞令の日附）であるから、この躍動期に生れ且つ育つた事がよくうなづかれる。

狭い専務理事室に畏友故辰巳経世君と自分とが同居を命じられて、宮島先生の編輯指導を受け乍ら第一、二、三号と次々に出版せられて行つた。それが躍進関大にどんな役割を果たしたかの評価は、校友各位それぞれの胸にあることで私は敢えて語らない。

月日の流れは早く、昭和十一年の五月二日には、同じ中央公会堂で創立五十年の祝典が挙げられたが、時の委員長喜多村桂一郎氏、学長仁保亀松博士が共に故

人になられたのを初め、今年に至る二昔の間には可成りの変遷があつた。関西大学創立五十年史と当学報の創立五十年記念号などの記録をここでひととげば、私の文章は完全な回顧録に墮してしまつてあろう。

過去をふりかえる事は一応大切なことであるが、未来に光を求めて静かに企劃構想する事は更らに必要なことであり、私はこれを最も好む。さればこそ本誌第二二五号（昭和二十二年四月）に禿筆をかかつて、「関西大学新学園の構想」を綴り、文中に関西大学百年祭の盛観を夢想してこれを讀めたこともある。今その文章を掲げることの重複は紙幅が許さないので御参照を乞う事とし、さて茲に三十五年前を語り、かつて四十年後の百年祭を綴つた私の文章を想起したわらいは一体どこにあるのか？

本命は今年迎えた創立七十周年の記念事業にある。私の拙文を僥倖にも一読せられた学園関係者は、理事、監事、評議員という経営面の担当者は元より、学内にある学長、教授、教諭、職員、学生生徒、そして学外にあつては数方の校友諸賢が、湧き上る母校発展祝福の祭典をどのように練り上げようか計画し又は期待せられるのか、聞き度いのは広く関係者の声であり、特に校友の希望である。勿論学内に於ては、創立七十年史の編

纂が進んで居り、同略史と記念論文集の刊行も共に軌道に乗つて居る。其の他の記念行事に就いては、私もそれに指名せられて居るが、関大七十周年行事計画委員会並に同記念事業準備委員会に於ても可成りの進捗を示し、今では理事会の予算決裁を待ち、同時に学生側新委員の陣容を待つて合同懇談会を催し、私の信条である所の小異を捨て、大同につく、所謂和を以て結ばれた榮光に輝く歴史的な祭典が挙げられることを祈念して止まないものである。

以上は七十周年のプロログに止まつたが、今秋行われる具体的な各種の記念行事については、やがて前述せる予算の裏付が出来た上で、許されれば筆硯を新たにしてみえらるであらう。

（筆者は本学評議員・同一中校長）

昭和三十年二月十五日発行

関西大学學報 第二七六號

大阪府大淀区長柄中通二丁目一二番地
編集兼 久 井 忠 雄
発行人 大阪市北區川崎町三八

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
電話堀川(七三〇二番)

大阪府大淀区長柄中通二丁目

発行所 関西大学學報局

電話堀川(35)一七五六番
振替大阪二六七七二番



友 友 パ ッ シ

關西大學校友會會則

(昭和二十九年十月三十一日改正)

第一章 總 則

第一條 本会は關西大學校友会と名づける
第二條 本会は母校關西大學の隆盛を図り會員相互の交誼を厚くすることを以てその目的とする

第三條 本会は其の目的を達するために左の事業を行う
一、學報の配付
二、會員名簿の発行

三、會員の懇親並びに慶弔
四、その他本会の目的を達するために必要な事項

第四條 本会は本部を關西大學本部内に置き支部を必要な地に設ける

第二章 會 員

第五條 左の資格を有するものを會員とする

一、學校法人關西大學の設置する學校又は前身である法人の設置した學校若くは關西法律學校を卒業した者
二、推薦校友

三、學校法人關西大學の設置する學校において現在役員及び専任の教職員にある者
第六條 會員は毎年六月末日までに會費金參百元を納めなければならない
入會員は入會と同時に金參百元を納めなければならない

第三章 役 員

第七條 本会に左の役員を置きその任期は二年とする

- 會 長 一名
- 副會長 三名
- 常 議 員 三十名
- 代 議 員 若干名

第八條 會長は總會で會員中からこれを推薦する

第九條 副會長は常議員會でこれを推薦する

第十條 常議員は代議員會で互選によつてこれを定める

第十一條 代議員は總會で會員中からこれを選出する

第十二條 本会支部の代表者はその任期中職務上これを代議員と認める

第十三條 會長は會務を統轄し總會・常議員會及び代議員會を招集し、その議長となる

第十四條 副會長は會長を補佐し會長に支障あるときはこれを代理する

第十五條 常議員會は會務を処理する

第十六條 代議員會は左の事項を審議する
一、常議員の選出
二、その他重要な事項

第十七條 本会に顧問を置くことができる
顧問は常議員會の議を経て會長これを委嘱する

第四章 總 會

第十八條 定時總會は毎年一回これを開催する
臨時總會は常議員會が必要と認めたときこれを開く

第十九條 左の事項はこれを定時總會に提出しその承認を受けなければならない
一、前年度収支決算
二、財産目録
三、事業報告

第二十條 總會の決議は出席會員の過半数でこれを定める、可否同数のときは議長がこれを決する

第五章 會 計

第二十一條 本会の經費は入會金、會費その他の収入を以てこれに充てる

第二十二條 本会の會計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日を以て終る

第六章 支 部

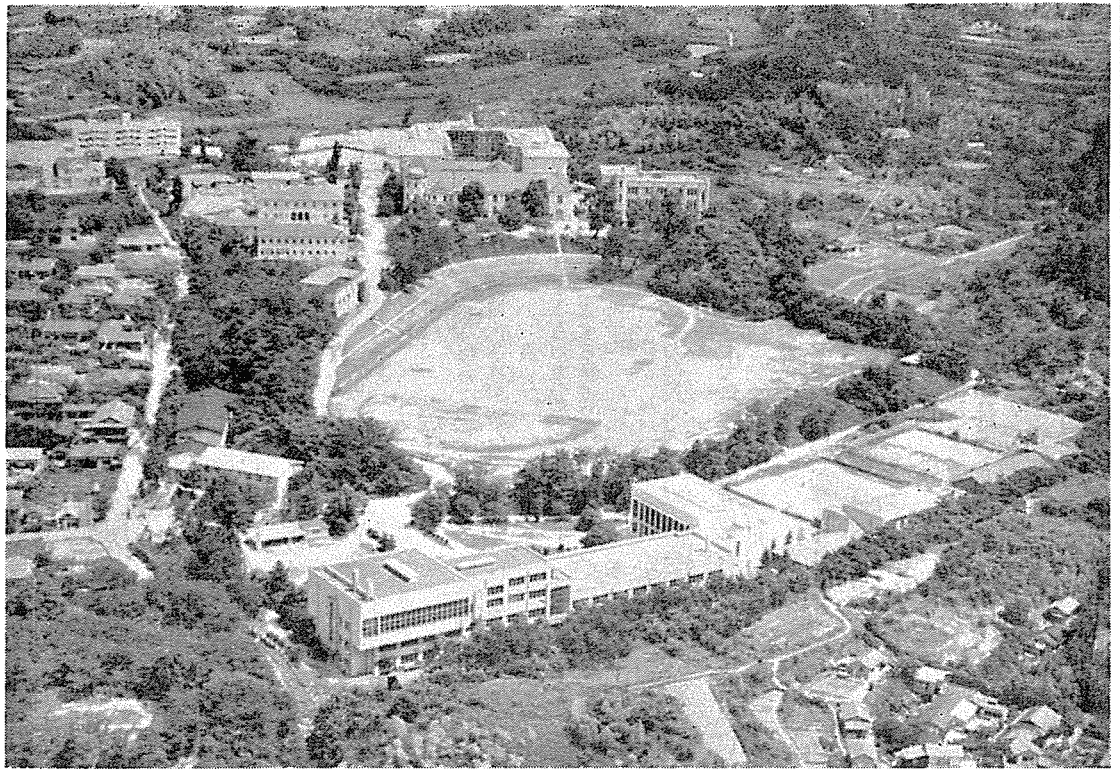
第二十三條 本会支部は支部規則會員の住所氏名及び職業等を本会本部に報告し常議員會の承認を得るものとする

第二十四條 本会支部には事務所を設け役員を置く

附 則

第二十五條 本会則は代議員會出席者の三分の二及び總會出席者の三分の二以上の同意がなければこれを変更することができない

關西大學天六學舎内
關西大學校友會
 大阪市淀川区長柄中通二丁目十二番地
 電話堀川 二〇〇七三番
 振替大阪 五五五四番



園学山千里たより観上機

關西大學學生募集

◎大學院

吹田市千里山

博士課程

出願 3月1日～4月9日

修士課程

出願 3月1日～4月6日

博士課程

4月11・12日

修士課程

4月7・8日

◎學部

第一部(昼) 吹田市千里山

文學部

出願 3月25日迄 試験 3月27日

◎第二部(夜)

大阪府大淀区长柄中通二丁目

各学部とも

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

3月1日より

試験

3月24日

試験

3月24日

試験

3月24日

試験

3月24日

試験

3月24日

試験

3月24日

◎短期大學部

商工經營科

大阪府大淀区长柄中通二丁目

出願 2月21日～3月19日

試験 3月21日

◎第一高等學校

吹田市垂水

出願 2月21日～3月3日

試験 3月4・5日

◎第一中學校

大阪府大淀区长柄中通二丁目

出願 3月1日～10日

試験 3月11・12日

入學要覽

大學院・學部・短大 (要50円 予8円)

高 校 (要30円 予8円)

中 學 (要20円 予8円)